議会だより

●（社）ことぶき福祉会（出雲市古志町）

法人が取り組んでいる「小地域相互ケアホームことぶきの里」の運営状況等について、理事長、担当者より説明を受けた。

この法人は、今回視察した施設以外に「認知症対応型グループホーム」、「地域密着型デイサービス」等の介護保険事業を行っている。

今回、視察した「小地域相互ケアホームことぶきの里」は、交流棟（管理棟）と3ＬＤＫ～1ＬＤＫの住居を9戸整備し２０代の家族（妻子）から９０代の独居高齢者まで幅広く、法人の理念に賛同する住民同士が相互理解のもとに生活しているものであった。

また、緊急通報装置が住居毎に整備されており、緊急時には職員や住民同士で駆けつける体制になっている。その他では「認知症対応型グループホーム」が隣接しており、様々なケースに対応できるようなコミュニティとなっている。

現在、「ことぶきの里」は社会福祉制度の適用外で、法人が独自で取り組んでいる事業のため、運営費等は家賃収入と入居者が当該法人の介護保険サービスを利用した給付費などで賄われている状況であった。

今回、視察した施設は、建設費や運営費に補助金などは充てられていない事業であったが、離島にある本町でも、医療・福祉の連携、人材の育成、効率面など、一体的なコミュニティの整備の検討が必要であると考える。このように、様々な面において見習う点の多い視察研修となった。

小地域相互ケアホームとは

1. 住居すべて戸建てで、年齢問わず皆が助け合って暮らす場です。
2. 介護や支援を必要とする人が個人でも家族とでも、また一人暮らし二人暮らしの高齢者、子育て中の家族、若者など多様な形 で利用できます。
3. 常駐する職員のいる交流棟があり、食事会や会合など自由に利用できます。
4. 緊急通報装置を各戸に配置し、交流棟の職員や住民同士で対応します。
5. 必要な方は希望に沿った福祉や医療、保険の利用ができます。
6. 誰もが安心して暮らせる地域社会の実現を目指しています。

ことぶきの里

西ノ島町議会　広報調査特別委員会